

「訪れた人健康に」と願い

秋田職能
短大

ジャンボ枝アメ飾り付け

大館市の秋田職業能力開発

短期大学校（中村雅英校長）

の学生と教職員約50人が15日、大館アメッコ市（2月8、9日・おおまちハチ公通り）の会場を彩るジャンボ枝アメの飾り付け作業を行った。ミズキの枝にピンクなど3色のアメ玉を結び付け、華やかな

20本を完成させた。

ジャンボ枝アメは高さ3、3・8歳のミズキの枝に縁起札とアメ玉を約400個を結び付ける。真冬に花が咲いたように見えることから、アメッコ市の名物となっている。同校は地域の伝統行事に理解を深めようと毎年、ボランテ

ィアで飾り付け作業に参加している。

体育館で作業が行われ、学生たちが黄や緑、ピンク色のアメ玉を金色のひもで一つずつ丁寧に結んだ。市観光協会の畠山喜満専務は「枝が分かれている所に結ぶと落ちにくい」とアドバイス。アメ玉を結び終わると、「交通安全」や「入試合格」などと書かれた縁起札を取り付けた。

吉田結月（ゆな）さん（住居環境科2年）は「アメの位置や色のバランスを考えながら結んだが、難しかった。アメッコ市を訪れた人が健康で過ごせるようにとの願いを込めて作業した」と話した。

アメッコ市は1588（天正16）年に始まったとされ、「この日にアメを食べると風邪をひかない」という言い伝えが残る。市観光協会によると、ジャンボ枝アメは地域のボランティアの協力を得て約60本製作し、会場のほか、公共施設などに設置してPRする。



アメ玉を枝に結び付ける学生たち（秋田職能短大）